

達成度(評価)
A: 十分達成できている
B: おおむね達成できている
C: やや不十分である
D: 不十分である

学校名	伊万里市立二里小学校
1 前年度評価結果の概要	・学習指導要領に根ざした学びの具現化と指導法の改善を推進し、基礎学力の定着と学びに向かう力を育む必要がある。 ・教育相談及び個別の支援について、学校全体で組織的に対応することへの意識が高まっており、体制の確立と充実を図りたい。 ・校内研究(算数)を中心とした授業改善に向けた共通理解と共通実践に取り組むたい。

2 学校教育目標	自ら学び、たくましく、心豊かな児童の育成 ～ 校训:『心 きびきび 精一杯』～
----------	---

3 本年度の重点目標	①「わかる授業」を基盤とした基礎的・基本的な学習内容の確実な定着(日常の授業と家庭学習の連動) ② 学校及び家庭の教育力を高める組織的な教育相談体制の確立と個別の支援体制の充実(いじめの未然防止等を含む) ③ 運動の楽しさを実感できる体育学習の充実と運動の日常化(体つくりの奨励等)
------------	---

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価
---------------	------	--------

(1) 共通評価項目			中間評価		最終評価		学校関係者評価	主な担当者	
評価項目	重点取組 取組内容	成果指標 (数値目標)	達成度 (評価)	進捗状況と見直し	達成度 (評価)	実施結果			評価
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上	B	・教職員間でマイプランを共有するとともに、授業実践を行う。また、校内研修及び学力向上対策委員会により取組のより一層の推進を図る。	B	・「学力向上対策評価シート」の共通実践項目を意識して授業に取り組んでいるのアンケートで、「よくあてはまる」「だいたいあてはまる」が75%であった。随時、振り返る機会を設定し、授業力の向上を図る。	B	・学習状況調査やC/R「学力検査等の結果を校内研修及び学力向上対策委員会と共有し、来年度に向けての取組の推進を図った。	主: 学力向上コーディネーター 副: 指導法改善
	○学習内容の定着に向けた「わかる授業」の実践と授業改善	○「授業中、めあてを持って学習し、学習した内容を振り返ることができている」と回答した児童80%以上	B	・「学力向上対策4つの取組」リーフレットを贈る。全教科において、めあてを提示し、学びの振り返りを設定する。 ・学力向上たよりを発行し、保護者の理解を得る。	B	・「授業中、めあてを持って学習し、学習した内容を振り返ることができた。」というアンケートでは、「よくあてはまる」48%、「だいたいあてはまる」48%であった。 ・「分かる授業」への取組では、保護者、教職員ともに、「よくあてはまる」「だいたいあてはまる」を合わせると75%以上であった。より保護者の理解、協力を得るためにも情報発信しながら取り組んでいく。	B	・学習状況調査やC/R「学力検査等のやり直しや補充学習等を行った。 ・学習状況調査やC/R「学力検査の結果資料やその見方等を知らせ、「西部型授業」「学力向上対策4つの取組」リーフレット」実践に向けて、今後の課題を次年度の目標にできるような啓発を行った。	主: 学力向上コーディネーター 副: 研究主任
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした児童80%以上	B	・ふれあい道徳や道徳に関するアンケートを実施した。80%以上の児童が思いやりや公正・公平などの道徳的価値について意識しながら生活している。今後は、言葉遣いなどの相手の立場や心情についてより一層学習することができるよう取り組んでいく。	B	・ふれあい道徳の実践や学校便り等を活用し、保護者への啓発を行うことができた。 ・道徳科の授業づくりに関する校内研修等を実施する。 ・道徳たよりを発行し、保護者の理解を得る。	B	・道徳の授業実践の充実を努め、道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした児童は80%であった。 ・学校便り、学級通信等を活用し、保護者への情報発信をし、理解を図った。	主: 道徳教育推進教員 人権・関係担当
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○教育相談及びいじめ防止等について組織的な対応ができていると回答した教師80%以上	B	・いじめの早期発見、早期対応体制の充実を努めている。アンケートでは、「だいたいあてはまる」以上が、教職員100%、保護者70%であった。 ・連絡会及び事例研究会等の開催による情報共有を図り、教育相談よりへの発行等により、保護者へ理解を促す。	B	・「いじめの早期発見、早期対応体制の充実」に努めている。アンケートでは、「だいたいあてはまる」以上が、教職員100%、保護者70%であった。 ・職員間での情報交換を含め、いじめの発生が疑われた場合は早期対応を行っている。しかし、組織としての取組、学校全体としての心の教育などの取組強化の取組がまだ不十分である。	B	・いじめの早期発見、早期対応体制の充実を努めている。アンケートでは、「よくあてはまる」50%、「だいたいあてはまる」50%であった。	主: 生徒指導主任 副: 校長
●健康・体づくり	○児童が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	○「夢や目標をもって学校生活を送る(4年～6年)」について肯定的な回答をした児童(6年生)80%以上	B	・特別活動を核として、自分の夢や目標の実現を目指して意欲的に取り組もうとする態度を育むキャリア教育を推進する。 ・学校と地域が一体となった体験活動などにより、郷土への誇りと愛着を育む。	B	・特別活動をもって学校生活をおくっているのアンケートでは、「だいたいあてはまる」以上で、児童(4年生以上)90%、保護者70%、教職員(教職員)90%であった。児童が意欲的な回答をしているので、キャリアパスポートや地域研修等を生かしながら、郷土愛をくわく取り組みや自己肯定感を高める実践をしていきたい。	B	・キャリアパスポートを生かしたり、米作り等の体験活動を地域と協力して行いながら、郷土愛や自己肯定感を高める教育を実践した。	主: 教務主任 副: 特別支援担当
	●「運動習慣の改善や定着化」	●授業以外で運動やスポーツをおこなう時間が1週間420分以上の児童生徒60%以上	A	・運動の楽しさを実感できる体育の授業づくりを行い、学習との関連付けにより、運動の活性化を図る。 ・体力向上たよりを発行し、保護者の協力を得る。	A	・「体育以外で、一日(土日を入れて)1時間以上運動しているのアンケートでは、「7割の児童が「よくあてはまる」「だいたいあてはまる」であった。数値目標は達成しているが、ほとんど運動しない児童もいる。校時の見直しと、運動できる時間を増やしているが運動量の二倍も見られる。今後は、運動の機会だけでなく、運動の楽しさを感じさせるなどの手立てを行う。	A	・授業以外で運動やスポーツをおこなう時間が1週間420分以上の児童生徒80%であった。コロナ禍のため、体育活動の制限があったが、授業形態等の工夫を行い、児童の運動量や意識向上に努めた。	主: 体育主任 副: 研究主任
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	○望ましい食習慣と基本的な生活習慣の形成	○朝食をとって登校する児童80%	B	・生活状況調査、食に関する意識調査の実施、保護者たよりの発行し、保護者の協力を得る。	B	・「ほぼ毎日朝ごはんを食べている児童は、85%であった。献立、献立の用意は、朝食を取っていないときがあり、生活習慣の見直しや保護者への啓発等も行っている。	B	・朝食をとって登校する児童90%以上であった。 ・学校活動、家庭科等の授業を通し、朝食についての意識を高めた。朝食を取っていない児童の保護者への啓発等を行ったり	主: 保健主事(養護教諭) 副: 栄養教諭
	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外勤務時間の上限を遵守する(月45時間以内、年間360時間以内)	B	・定時退勤日の設定と年休等の取得促進を図る。 ・校時程の見直しによる業務・成績処理の時間の確保に努める。	B	・4月から12月までの職員の時間外勤務の平均は、約27時間であった。業務の効率化や業務内容の見直し等により、定時退勤日の実行、声出し、年休等の取得促進を図っている。	B	・4月からの3ヶ月までの職員の時間外勤務の平均は、約27時間であり、目標の360時間以内を達成した。	主: 管理職
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	○働き方に対する改善が図れたと考える教員80%以上	○働き方に対する改善が図れたと考える教員80%以上	B	・業務分掌の見直しによる各部会及び各委員会の再編成を図り、「二里小SAIKO」の意識を高める。	B	・「働き方に対する改善が図れた」と回答した教員は、「よくあてはまる」が、75%であった。今後は、組織や業務内容、仕事の見直し等だけでなく、職員の意識改革、芽生えへの理解の対策を行う。	B	・校時の見直し、業務に当てる時間を確保したことにより、「働き方に対する改善が図れた」と回答した教員は、「よくあてはまる」「だいたいあてはまる」74%であった。	主: 管理職

(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目			中間評価		最終評価		学校関係者評価	主な担当者	
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	達成度 (評価)	進捗状況と見直し	達成度 (評価)	実施結果			評価
○特別支援教育の充実	○教員の専門性と意識の向上	○特別支援に関する知識や支援のあり方が向上したと考える教員80%以上	B	・個別の支援計画にもとづく支援体制と校内を図る。 ・特別支援教育に関する研修会、ケース会議等を開催し、情報の共有化を図る。	B	・「特別支援に関する知識や支援のあり方(個別の支援計画にもとづく支援や情報の共有化等)が向上した」のアンケートでは、「だいたいあてはまる」以上が、85%であった。職員間で情報交換を頻密に行い、児童理解に努めている。	A	・個別の支援計画にもとづく(支援体制と校内)を図る。特別支援教育に関する研修会、ケース会議等を開催し、情報の共有化を図った。	主: 特別支援教育コーディネーター

5 総合評価・次年度への展望	<p>・校内研究(算数)を中心とした授業実践を通して、学習指導要領に根ざした学びやその指導法、学習過程等の共通理解を図ることができた。より一層の基礎学力の定着と活用する力の育成、および、「学び合い」に対する理論研究、共通理解とそれらを取り入れた授業展開の工夫等、更なる深化を図ってきたい。</p> <p>・教育相談や特別支援教育及び個別の支援について、学校全体での体制作りや組織的に対応することの重要性について共通理解を図ることができた。また、保護者との連携を密に図り、協力を得ることができた。関係機関と連携しながら、更に体制の確立と充実を図りたい。</p> <p>・学力向上地域指定事業(算数)での取組を中心とした学び合い活動を他教科、領域に広めるとともに、コミュニケーション能力等、これからの社会に必要な力を身につけさせるための共通理解と共通実践に取り組むたい。</p>
----------------	---

●...県共通 ○...学校独自 ◎...志を高める教育